

キャラクター名
町野曾稀 (チョウノソウキ)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー エグザイル	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	高校生
オプション		年齢	17	性別	
覚醒	素体	衝動	妄想	初期侵食率	36 %
出自	待ち望まれた子	経験	脱走	邂逅	幼子「テレズ・ブルム」

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	45
肉体	3	1	3			7	行動値	7
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	7
精神	1	0	0			1	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			RC			交渉		
回避	4		知覚	1		意志	2		調達		
運転：二輪	2		芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き剣	白兵	7r+6	0	消費HP+8		消費HPは [Lv×2] まで

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
----	----	----	----	----	----

所持品	
コネ：UGN幹部	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
D：吸血鬼	P	N		
レイラ・ディランディ	P 慈愛	N 悔悟		
霧谷雄吾	P 慕情	N 不信任		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
異形の刻印	2	常時3	常時	-	自身	自動	-	
効果： HP+[Lv×5]								
赤き聖餐	1	3	セット	至近	単体	自動	0回	
効果： 戦闘不能を回復 HP{Lv×5}1回								
赫き剣	2	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 白兵武器作成 消費HP分攻撃力 [-Lv×2] 以下								
コンソレイト：ブラムストーカー	3	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果： C値-Lv (下限値7)								
渴きの主	2	4	Xジャー	至近	単体	対決	-	
効果： 装甲無視 HP{Lv×4}回復								
鮮血の一撃	2	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果： Dの数+ [Lv+1] HP2消費								
血の宴	2	3	Xジャー	-	範囲(選択)	対決	-	
効果： 射程を範囲(選択) 1リゾLv回復								
うごめく沼	★	2	リアクション	至近	自身	対決	-	
効果： ドツチ成功時戦闘移動(離脱)が可能								
かぐわしき鮮血	1	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 特定の個人や集団を探し出す								
異能の指先	1	3	Xジャー	至近	単体	自動	-	
効果： 神経系に侵入し記憶を読み取る								
鍵いらすの歩み	1	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 身体を変形させ隙間に入り込む								
生体侵入	1	4	Xジャー	至近	単体	自動	-	
効果： 他者の体内に入り隠密状態となる								
効果：								

「私の完璧な力に平伏せ！そして従え！傅け！駒となれ！…忠誠を誓い、我を信じろ」

UGN嶋野町支部所属。支部長を務める。

【シナリオ】
1：Crumble Days…渡辺弥琴、土佐架途、コルナス・アチガルト、レベッカ・ディランディ
2：World End juvenile…渡辺弥琴、土佐架途、コルナス・アチガルト、レベッカ・ディランディ

【経歴】
兄の研究の末、完璧な素体として生まれた。望まれた存在故若くしてその地位に就き、組織内に多くの部下を持つ。待ち望まれた素体とは即ち、男の血液と女の血液を両立させることのできる存在。その稀な成功例故に貴重な被験体として扱われ、様々な実験を施されてきたのだが、自分とは明らかに被験体としての扱いが違う幼馴染であるレベッカ・ディランディを酷に思い、共に脱走を試みる。しかし結局は失敗に終わり、自身は叱責すら受けず彼女だけ罰として手酷い仕打ちを受ける様を見、胸を痛め、後悔し、自分が彼女に近づくと余計に彼女を傷つけると思い関係に一線を引く。

多くの仲間がいるようだが、実は内心では不安感を抱いている。自分こそがただ「駒」として望まれただけ…ちやほやされ、大事にされて生きてきたが「自分」を見てくれる人はいるのだろうか…駒として機能しなくなったいつか、誰も自分を見つけてくれずに捨てられる日が来るのではないだろうか…若い自分を快く思わない年配の部下も当然いることは知っている…いつか戒められる日が来るのではないかと…そんな不安をかき消すように、心に蓋をし明らかに現在の社会に不似合いなくらい大仰な口調と尊大な態度をとるようになる。まあ、彼の本質にあってはいたのか、その謎のキャラはさすがに馴染んで自然体となったようだが、そのため、表の世界で見る彼と、オーヴァードとして活動する彼はまるで別人。日により所によりその仮面を使い分け、その本心を二重にも三重にも隠している。本当の彼は臆病で虚勢をはる、ただの子供なのだ。かつてその力をうまくコントロールできなかった頃は、自分の掌を噛んで傷口を作ってそこから血液を操っていた。今でもその時の傷がいくつも残っており、その頃の癖が残り、今は掌に口付けてから能力を扱っている。